

理事 若栗 尚 氏を偲んで
—平成10年12月7日逝去(63才)—

創刊号以来「音の話」をずっと執筆していただいていた理事の若栗尚氏が、お亡くなりになりました。音一筋に生きてこられ、NHKの放送技術音響聴覚研究部部長をされながら、当財団の理事として財団運営にもお世話になりました。創刊号の“音”雑感の冒頭に次のように書かれています。

私は、子供のころから音には、大変、興味があった。周囲の人の影響も大きかったが、高等学校と大学の時に、夫々、1年ずつ体をこわして休学することになり、その間に、ラジオで音楽を聞くのが最大のたのしみとなった。ただ、始めに、音と書いたのは、子供のころも音楽であれば、クラシック、ジャズ、ラテン音楽、シャンソンなどなんでもよかったのと、今では、職業がら、音楽を聞く、演奏を聞くというよりは、物理的な特性、例えば、周波数特性、歪、再生しているシステムの性質、ホールの音響特性などに頭が働く方が多いからである。

その後NHKを退職されて航空公害防止協会・航空公害研究センターに移られました。それを文月号から引用します。

仕事の内容は、以前は同じ音響関係でも、どちらかというとなりの良否を問題とする分野、ひらたく言えば“良い音”についての研究であったが、今度は、この反対の騒音、“悪い音”についての研究が中心になることになる。

音についての深い知識に裏打ちされた暖かい文章で好評だった「音の話」、読者からの相談にも一つ一つ丁寧に返事をなされた優しいお人柄にお別れをしなければならなくなりました。

私どもの財団には創設よりご援助いただき、衷心よりお礼申し上げます。

合掌

(健康文化振興財団理事長 林 誠太)

